

4月18日

私の主、私の神

ヨハネ福音書20章19～29節

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。

20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

20:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」

20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らといっしょにいなかった。

20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。

20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと
いっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの
中に立って「平安があなたがたにあるように。」と言われた。
20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付け
て、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し
入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

イエス様は復活の後、40日約6週間、弟子たちにお会いになって語ってくださいました。

イースターは終わりましたがイースターの宣教は続いています。今日もイースターの恵みの余韻に浸り、イースターの恵みを今一度味わっておきたいと思います。

復活のイエス様に出会って多くの人が変わられていきました。

その中の一人、デドモ(双子)と呼ばれるトマスとイエス様の出会いから復活の恵みに与りましょう。

トマス

マタイ、マルコ、ルカには12使徒の名簿の中にだけ出てきます。それ以外には登場しません。

名前が書かれているだけで人柄はわかりません。ヨハネ福音書には復活のイエス様との出会いが丁寧に書かれています。それだけでなく、その伏線として

ヨハネ11章16節

ヨハネ14章5節に登場します。

ヨハネ11章16節

11:16 そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間に言った。「私たちも行って、主といっしょに死のうではないか。」

ヨハネ14章5節

14:5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」

ヨハネ11章16節

11:16 そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間に言った。「私たちも行って、主といっしょに死のうではないか。」

トマスはどんないきさつでこの発言をしているのか。

11:11 イエスは、このように話され、それから、弟子たちに言われた。「わたしたちの友ラザロは眠っています。しかし、わたしは彼を眠りからさましに行くのです。」

11:12 そこで弟子たちはイエスに言った。「主よ。眠っているのなら、彼は助かるでしょう。」

11:13 しかし、イエスは、ラザロの死のことを言われたのである。だが、彼らは眠った状態のことを言われたものと思った。

11:14 そこで、イエスはそのとき、はっきりと彼らに言われた。「ラザロは死んだのです。」

11:15 わたしは、あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいます。さあ、彼のところへ行きましょう。」

11:16 そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間に言った。「私たちも行って、主といっしょに死のうではないか。」

イエス様は彼の所に行こう、死んだラザロの所に行こうとイエス様が言われていると

信じて

私も一緒に死のう、殉教の死、英雄的な死に方をしようと言っています。

ヨハネ14章5節

14:5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちに分かりましょう。」

この言葉の前には

14:1 あなたがたは心を騒がしてはなりません。
神を信じ、またわたしを信じなさい。

14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。

14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとのに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

14:4 わたしの行く道はあなたがたも知っています。」

14:5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」

この二つの個所からこの時のトマスの信仰が分かります。

イエス様は正義のため、
神様のために英雄的な
殉教の死、犠牲の死、身代わりの死を遂げる
という信仰に生きていました。

イエス様の英雄的な死に、トマスもついて行こうとして
いた。

この英雄的な犠牲の死によって
ユダの人々が目覚めてローマからの独立を果たして神
の国が建てられるという信仰に生きていた。

忠臣蔵も主君の無念を晴らすために
仇討ちをして

成功して全員切腹を果たしました。

この忠臣の犠牲的な死によって
腐敗したわいらばかりの幕府が少しは良くなる
という期待感があった。

アリマタヤのヨセフもニコデモも、死に至るまで神様に忠実に生き、犠牲になってくださったイエス様のおからだに油を注いでイエス様に感謝を表したいという思いから香油を注いだのであります。

マグダラのマリヤはイエス様にすがろうとした。その
時、

20:17 イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。」

マグダラのマリヤは復活したイエス様に
すがりついて、もうどこへも行かないで、
いつまでもわたしたちと一緒に離れないでいてく
ださと懇願しました。

イエス様は肉体的には一緒にいない、父のもと
に帰り、弟子たちと離れるが、新しい形であなた
方と一緒にいます。その方がはるかに素晴らしい
ことです。聖霊によってイエス様と一緒にいること
のすばらしさを教えられました。

復活され、天に帰られ、聖霊がくだり、
聖霊によってイエス様と交わることは
時間空間を超えて交わることができます。

そんなことを教えるために
イエス様は閉ざされた部屋にも自由に入って行
かれたのです。

私たちの閉ざされた心の中にも入って
励まし慰め導き力つけてくださいます。

トマスは英雄的な殉教の死をイエス様はされる
だろう。

その通り十字架で立派に果たされた。
しかし、その時トマスは怖くなって他の弟子と一
緒に逃げてしまった。

イエス様と一緒に十字架にかかって
英雄的な死を遂げられなかった。

それを恥じて、十字架の後、
翌週までどこかに身を潜めていました。

20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように。」と言われた。

20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

イエス様の働きは十字架で
終わるものではなく
復活に発展し、
聖霊によって罪の赦し、心の扉が開かれ、
イエス様のおからだに
香油を塗る働きではなく
聖霊なる油を、罪の中に死せる人々に
受け入れていただいて、
救われて復活のいのちに与かっていただくため
あります。

マタイ10章42節

この小さい者たちのひとりに、水一杯でも飲ませるなら、まことに、あなたがたに告げます。その人は決して報いに漏れることはありません。」

マタイ25章40節

『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

私たちの近くにいる人に小さな愛の業をなし命の水、みことばを伝え、み言葉とともに聖霊が働いてくださることを信じて、機会を生かして行くことが、復活されたイエス様のおからだに油を塗る行為となっていくます。

これは私たちの力の働きではなくイエス様の働き
であります。

みことばを届けようとするとき、

復活されたイエス様はカギのかかった閉ざされた
扉を開いてトマスに語られたように

私たちの証しの働きの先頭に立って働いてくださ
います。

復活のイエス様の働きを信じて主の業に励みま
しょう。

祈り

主イエス様、十字架にお架かりになられ、復活してくださり、私たちの心の中に住んで下さり、また私たちとともにいてくださることを心から感謝します。私たちの堅く閉ざされた心を愛で優しく開いて交わってくださることを感謝します。イエス様の愛の言葉が、イエス様から出る聖霊の働きが私たちが交わっている方々、かかわっている方々の心の扉を開いてくださって主にある交わりができるように導いてください。アーメン。